愛媛農試方式（循環型）イチゴ高設栽培マニュアル

１　はじめに

イチゴは草丈が低いため、収穫や葉かぎなどの作業は中腰や膝を曲げた状態で行わなければならず、体に大きな負担がかかります。これを解消するため、作業姿勢の改善が図れる高設栽培が導入されるようになり、栽培面積が急速に拡大しています。

本県にはいろいろな方式の高設栽培が導入されていますが、既存のシステムは設備費が高価であったり、培地の一部にロックウールを用いたり培養液がかけ流しであるなど環境への影響が懸念されています。

このため愛媛農試では、施設費が安価で環境負荷が小さく、栽培管理の容易な高設栽培システムを開発しました（図１）。本方式は、栽培槽に不織布を用いたハンモック方式で、次のような特徴があります。

①培地に緩効性肥料を施用してチューブで灌水し、排液を集めて循環させるため環境への影響が小さい。

②施設費が１０ａ当たり約２４０万円と比較的安価である。

③栽培槽の不織布は、透水性、通気性に優れているため、湿害が起こりにくい。

④培地は有機質資材（ピートモス＋籾殻クンタン）を使用。容易に植え穴が開けられ、定植作業が容易に行える。

⑤架台をビニル等で覆うことにより培地温度を容易に確保できる。逆に培地へ送風することで気化熱を奪い、培地温度を下げることもできる。

⑥.栽培槽が不織布のため、発泡スチロール等に比べ廃棄の際に量が少なくて済む。

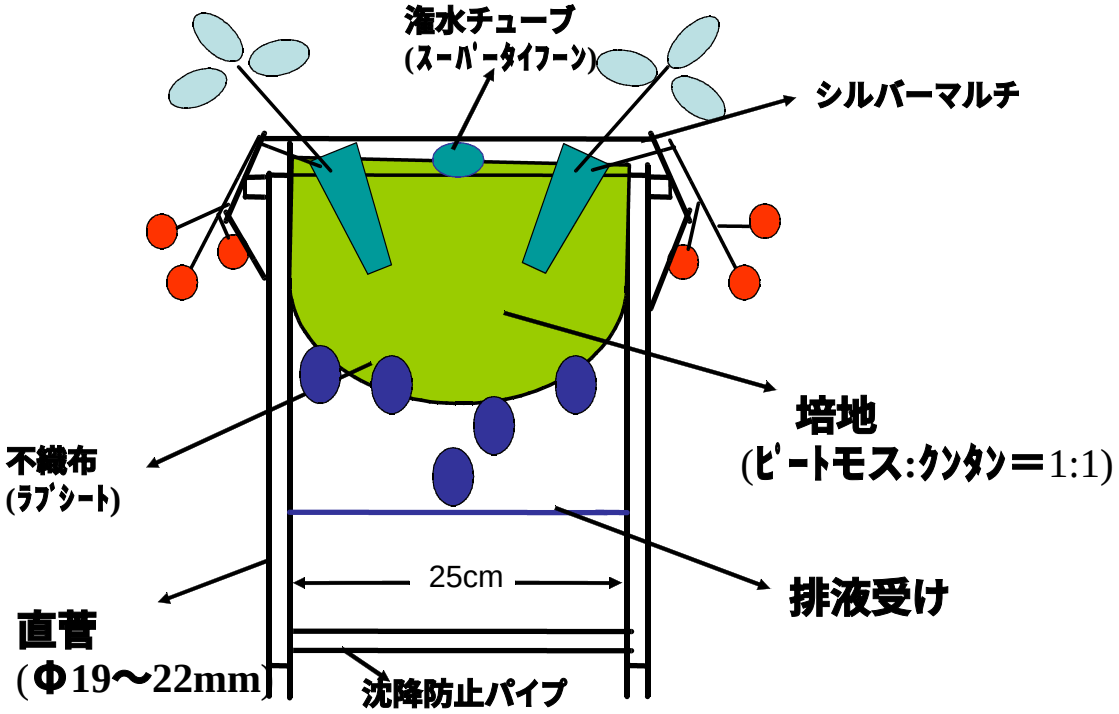

図１　愛媛農試方式の模式図